

# 久野康成の 「私なら、こうする!」

第67回

非常識な実践経営アドバイス

**英語力が中級レベルから向上しません。上級レベルに到達するための良い方法はありますか?**

(名古屋市 38歳)



Question

海外メディアからどれだけ情報収集できるかが鍵

Answer その2

ソントとして今後、要求される英語レベルは、海外のメディアから大きな支障なく情報が入手できることだと思います。具体的には、テレビであれば、BBC、CNN、経済誌であれば『エコノミスト』といったところでしょう。BBC、CNNは、毎朝、見るようにして3年程度経過しました。しかし、ビジネスパー

私自身、英語力が中級レベルで低迷している原因のひとつに、目標設定の誤りがあります。私は、外国人と英語での会話ができるレベルを目標設定していました。しかし、ビジネスパー

た。初めは、全く理解できず、見ること 자체が苦痛でしたが、友人から見続けば必ず聞き取れるようになると言われ、信じて続けました。今は6~7割程度は理解できるようになりました。これが完全に理解できるレベルが、今後直面するグローバリゼーションで要求されるものだと思います。

今まで毎月、10冊以上の経済誌を購読していましたが、すべて日本の経済誌でした。数年前、

かし日本にいる外国人の日本語を聞くと、正確な日本語を話す人には、努力に対する敬意を払

た。会計士の先輩からエコノミストの購読を薦められましたが、当時の自分の英語力と照らして躊躇してしまいました。これも、自分自身の目標設定が低かつたことが原因だと思います。

英文法に関する限り、外国人とコミュニケーションできることがあります。しかし日本にいる外国人の日本語を聞くと、正確な日本語を話す人には、努力に対する敬意を払

いたくなります。また、何年日本に住んでいても中途半端な日本語を話し続ける人は、仕事も結局、中途半端な努力しかしないのではないかと思つてしまいます。相手に英語が通じるかではなく、文法に誤りがない英語を話すことはビジネスにおいて非常に重要なことなのです。

## 中級以上になるには会話力よりも語彙力の強化を

英語力を測定するためにTOEICを年に3回程度受験してきましたが、これも目標設定が低くなつた原因だと分かりました。確かにTOEICは、非常に受験者が多く、当社でも英語力の測定道具として使用しています。しかし、これを目標設定すると勉強に偏りが出ます。TOEICでは難解な語彙が要求されないため、エコノミストがスラスラと読めるレベルの語彙力に到達しません。これを補うため、高度な語彙力が要求される英検1級の勉強も始めました。ある

意味、語彙力は人間の知的レベルを表すものです。外国人と会話するとき、文法が正確でも、簡単な言葉ばかり使つていれば、見下される恐れがあります。外国人との交渉力は、相手とのポジショニングでも決まります。そのためにも語彙力の強化は必須と考えられます。

中級までの英語の勉強法は、「3千語で英語がスラスラしゃべれるようになる」、「文法は知らないでもコミュニケーションができる」といった安易な方法が提唱されることがあります。これにも一理あります。実は約15年前、3年間NOVAに通っていました。全く英語が話せなかつた人間が、話せるようになりました。これは画期的なことでした。ここで手法は、子どもが言葉を覚えるように、耳から聞いた言葉を、口でリピートしたり、言い換えたりするものや、絵を見て自分なりに説明するものでした。つまり、文字から入らないということです。日本人の

英語の勉強は、文字から入るため、実践では使うことができなかつたのです。私も子どもが言葉を覚えるように、実力がどんどん付いていきました。アウェジションでも決まります。そのためにも語彙力の強化は必須と考へられます。

トプットのトレーニングをどれだけ行つても、インプットされた以上のアウトプットはできないのです。英会話学校に通うことはかり行い、自宅での英語学習を軽視していたのです。

方法論を誤つていれば、どんなに時間を費やしても実力が頭打ちします。外国人と実際に会話をするアウトプットのトレーニングは、あくまでもインプットされたものを効率的に使えるのものです。長くインプットの勉強ばかりして、きた人には、英会話学校に通えば、ある時期は

### [プロフィール]

久野康成(くの・やすなり)  
公認会計士。人財開発・東京コンサルティングファーム会長兼CEO。東京税理士法人統括代表社員。1965年生まれ。愛知県出身。滋賀大学経済学部を卒業後、青山監査法人(プライス オーラーハウス)入所。監査部門・中堅企業経営支援部門にて、主に株式公開コンサルティング業に携わる。98年久野康成公認会計士事務所を設立。東京のほか、横浜、名古屋、大阪、インドにて「第2の会計事務所」として会社を設立。経理部門へのスタッフ派遣・紹介など幅広い事業を展開し、グループ社員総数は360人に上る。著書に『できる若者は3年で辞めろ!』『2008年版 図解インドの投資・会計・税務の基本』『母性の経営—management therapy』(共に出版文化社)がある。

付きます。しかし、中級から上級になるためには、絶対的なインプット量が必要です。生産性を高めても、投入量が少なければ、生産高は伸びないのであります。上級になるためには、自分なりの確たる方法論を持たなければいけません。英語の勉強では、この方法論の確立が非常に難しいのが特徴です。巷では、千差万別の英語勉強法が提唱され、われわれは迷うことになります。次回、私の方法論を紹介します。

(このコーナーでは、経営に関する相談を読者の皆様から受け付け実践的アドバイスとしてお答えしております)